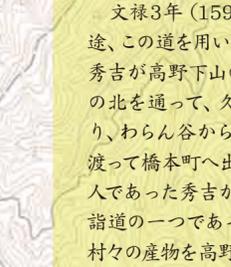
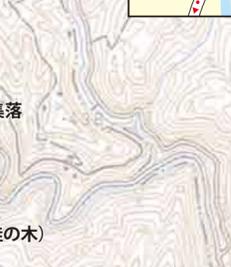
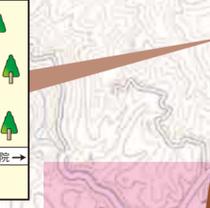
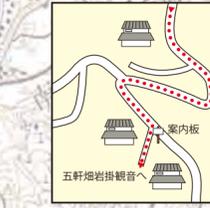
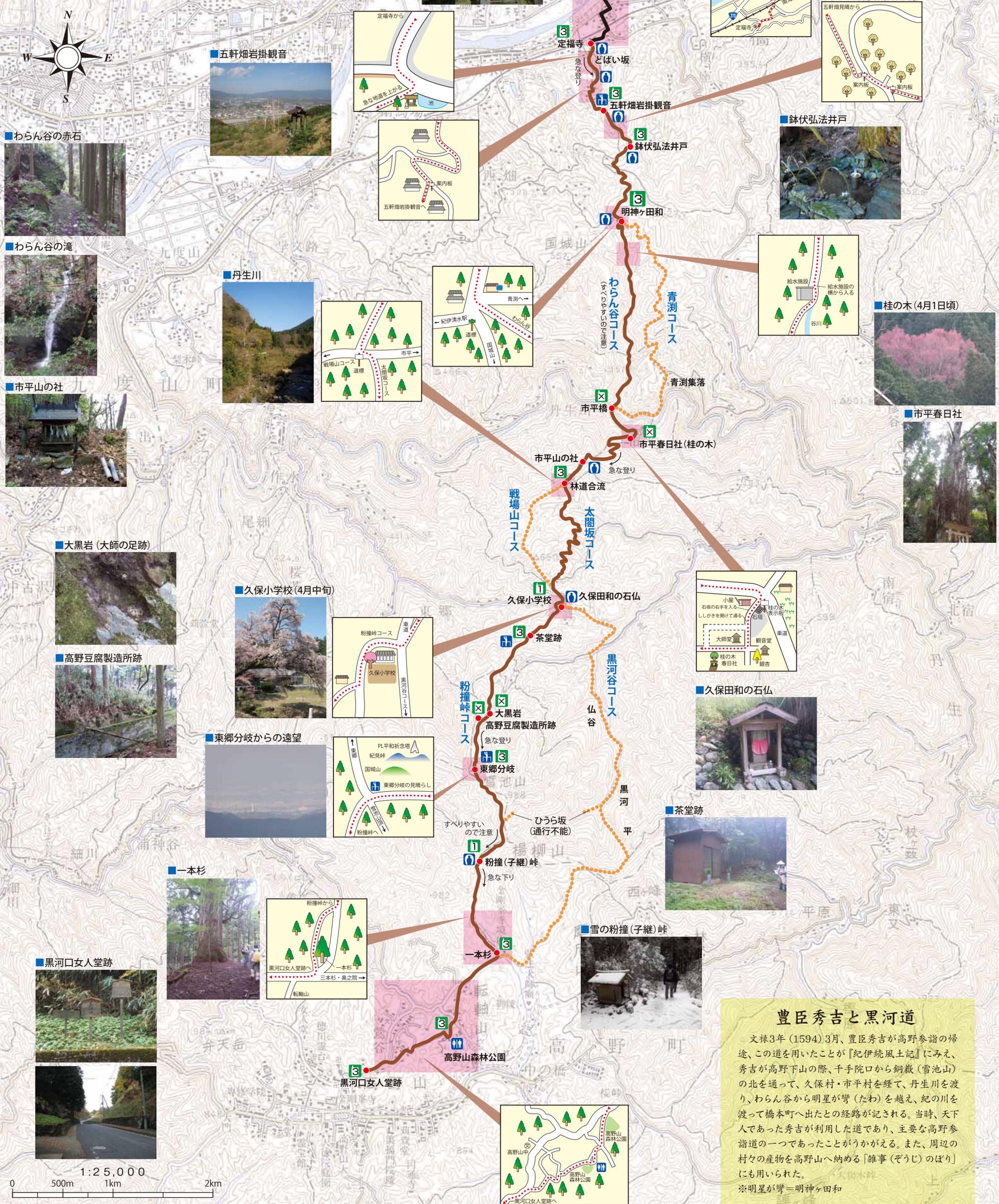


黒河道 [橋本駅～黒河口女人堂跡]

黒河道は高野七口(こうやなくち)の一つ黒河口に至る高野参詣道で、橋本市賢堂から高野山の千手院谷へ通じています。橋本から高野山への近道とされ、また、大和国からの参詣客がしばしば利用することから、大和口とも呼ばれました。道が険しいことから、多くの参詣客は黒河道の西方を並行する京大坂道を利用したようですが、文禄3年(1594)の豊臣秀吉の高野参詣の帰途に用いられたことが文献にみえ、高野参詣の主要な道の一つであったことがうかがえます。周辺地域では、地域の産物を高野山へ奉納する「雑事(ぞうじ)のぼり」にも利用されたとみられ、物資の輸送にも使われたことが推定されています。秀吉の利用したルートが復原され、平成27年10月、国の史跡に指定されました。



- 凡例
- トイレ
 - 石仏
 - 見晴らし
 - 携帯感度



豊臣秀吉と黒河道

文禄3年(1594)3月、豊臣秀吉が高野参詣の帰途、この道を用いたことが『紀伊続風土記』にみえ、秀吉が高野下山の際、千手院口から銅嶽(雪池山)の北を通って、久保村・市平村を経て、丹生川を渡り、わらん谷から明星が彎(たわ)を越え、紀の川を渡って橋本町へ出たとの経路が記される。当時、天下人であった秀吉が利用した道であり、主要な高野参詣道の一つであったことがうかがえる。また、周辺の村々の産物を高野山へ納める「雑事(ぞうじ)のぼり」にも用いられた。

※明星が彎＝明神ヶ田和

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平27情復 第767号)
この地図を第三者が複製する場合には、国土地理院の長の承認を得る必要があります。